卒業メニュー (4)

（三学期が終わりに近づいたある日、給食に卒業生のための卒業メニューが出ました。）

いつもだったら全部おかわりするようなすばらしいメニューなのに、あたしはなかなか箸が進まなかった。卒業メニューが、お別れメニューのように思えてしまったのだ。

お別れなんてしたくない。二年後の卒業のときも、この学校で美貴たちといっしょに卒業メニューを食べていたい。そう思ったら、大好きなメニューも食べたくなくなってしまっていた。給食を食べたくないなんて、小学校入学以来はじめてのことだった。

それでものろのろと食べ進めて、最後にデザートのクレープが残った。あたしがそれに手をつけるのをためらっていると、こっちを見ていた美貴と目が合った。

①美貴はなにかを察したような顔をしていた。そんな美貴に、なんでもないよ、と伝えるようにほほえんでみせると、あたしはクレープに手を伸ばそうとした。

そのとき突然、美貴があたしに尋ねてきた。

「ねえ、そのクレープ、わたしにくれない？」

あたしは②目を丸くした。美貴が給食をねだることなんて、これまでなかったから。班のみんなも、えっ、というふうに美貴のことを見ていた。

べつに惜しくはなかったけど、あたしはわざと意地悪に聞きかえした。

「うーん、条件にもよるかな。これの代わりに、美貴はなにをくれるわけ？」

「なにもあげない」

美貴は平然とこたえた。その返事を聞いて、あたしはきょとんとしてしまう。

「いやいや、それはないよ。こんなレアなメニューをただでもらおうなんて、いくらなんでも③虫がよすぎ……」

「ごめんなさい、言いなおすわ。いまはなにもあげない」

美貴があたしの言葉を遮った。あたしが④首を傾げると、美貴はあたしの顔をまっすぐに見つめて続けた。

「でもその代わりに二年後、三年生のときの卒業メニューのデザートを、梢のところに持っていくわ。傷まないように冷凍して、週末に電車に乗って。⑤絶対に、約束する」

美貴の眼差しは真剣だった。美貴の言葉の意味に気がついて、あたしの胸は震えた。

あたしがひそかに望んでいた約束を、美貴はいま、交わしてくれようとしているのだ。あたしが転校したあとも、ずっと忘れずにいる。ずっと友達でいる。そういう約束を。

（如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版 所収「卒業メニュー」による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「美貴はなにかを察したような顔をしていた」とあるが、美貴は何を察したのだと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア　「あたし」が気をつかわせないよう無理にふるまっていること。
イ　「あたし」が美貴と約束を交わしたいと感じていること。
ウ　「あたし」が転校による別れのことを考え、気が沈(しず)んでいること。

〔　　〕

(2)　――線②「目を丸くした」とあるが、「目を丸くする」が表す心情として適当なものを選びなさい。

ア　驚(おどろ)き　**イ**　感心　**ウ**　緊張(きんちょう)　**エ**　喜び

〔　　〕

(3)　――線③「虫がよすぎ」とあるが、「虫がいい」とはどういう意味か。適当なものを選びなさい。

ア　何となく気にくわない。
イ　機嫌(きげん)が悪く、わずかなことも気に障(さわ)る。
ウ　自分の都合だけを考えており、身勝手である。

〔　　〕

(4)　――線④「首を傾げる」が表す心情として適当なものを選びなさい。

ア　怒りがわく。不満を抱く。
イ　期待が高まる。胸が弾(はず)む。
ウ　不思議に思う。疑問に思う。

〔　　〕

(5)　――線⑤「絶対に、約束する」とあるが、「あたし」は美貴がどのようなことを約束しようとしていると気づいたのか。それが読み取れる一続きの二文を探し、一文目の最初の五字を答えなさい。

□□□□□